4月9日（木）

北日本新聞・富山新聞に掲載されました

北日本新聞

瀋陽の病院と友好協定

真生会富山病院 「アジア一目指す」

友好交流の協定書に署名した王院長（左）と真鍋院長

真生会富山病院（射水市下若・大門、真鍋恭弘院長）と中国・瀋陽市第四人民医院は8日、友好交流を進める協力関係協定書を取り交わした。真生会富山病院アイセンター（眼科）長、舘奈保子医師に第四人民医院客員教授の任命書が授与された。

第四人民医院は医師数900人で眼科医は105人。ベッド数は1400床。昨年8月に真鍋院長と舘医師が同病院を訪れたのをきっかけに、協定を結ぶことになった。

式が真生会富山病院であり、瀋陽市から第四人民医院の王樹東院長、王海林副院長ら5人が出席した。両院長が協定書に署名。王院長は「眼科を中心に交流を進めたい。お互いに学び、一緒に頑張っていく」、真鍋院長が「両病院の長所を生かして学び合い、アジアの病院を目指したい」とあいさつした。

舘医師は今後、第四人民医院で講演や公開手術を行い、同医院の若手医師が真生会富山病院に研修に訪れる。真生会富山病院が中国の医療機関と協定を結ぶのは大連市の大連医科大に続いて二つ目。

浅草寺に1200本のチューリップ

となみのフェアPR

県花卉球根農業協同組合と砺波市球根組合、同市東般若地区田中自治会、同市などは8日、東京・台東区の浅草寺に12品種1200本のチューリップを並べ、23日開幕のとなみチューリップフェアをPRした。

昨秋にたる型のプランターに球根を植え込んだ。県産品種の「黄小町」「立山の春」などが見ごろを迎えている。この日は仏生会（花まつり）法要が行われ、境内には国内外の観光客が大勢訪れており、色鮮やかな花々を楽しんでいた。夏野市長らがフェアのパンフレットを配った。

浅草寺の本尊がかつて同市東保の観音堂（俗称・浅草観音堂）に安置してあったとされることが縁で展示した。

色とりどりのチューリップが並ぶ浅草寺の境内

富山新聞

中国の若手医師受け入れ

射水・真生会富山病院 人材育成へ

瀋陽の医院と協力協定

公開手術も計画

協力関係協定書に署名押印し、握手する真鍋院長（右から2人目）—射水市の真生会富山病院

射水市の真生会富山病院は8日、眼科医療に定評のある中国・瀋陽市第四人民医院との協力関係協定書に調印した。計画では真生会が毎年、瀋陽からの若手医師数人を受け入れて医療実習を行うほか、瀋陽での公開手術も予定しており、両病院の医師の資質を高め、優れた人材を育成する。

調印式では真生会富山病院の真鍋恭弘院長と瀋陽市第四人民医院の王樹東院長が協定書に署名押印した後、真生会富山病院の舘奈保子アイセンター長が瀋陽市第四人民医院の客員教授に任命された。

王院長は「友好への新たなページを開いた。眼科を中心にさまざまな交流を行い、互いの医療技術の発展につなげたい」とあいさつ、王海林副院長らも謝辞を述べた。真鍋院長は「互いの長所を学びあい、ともに世界一の病院を目指そう」などと応じ、舘センター長が交流の発展に期待を示した。

舘センター長は、糖尿病の合併症で成人後の失明の原因として知られる「糖尿病網膜症」の治療で実績がある。昨年8月、舘センター長が瀋陽市第四人民医院を訪問して交流が始まり、その後、眼科だけでなく、消化器内科など幅広い分野で連携することになった。

瀋陽市第四人民医院には約900人の医師がおり、病床は1400床。真生会富山病院は昨年11月下旬、中国・大連医科大とも協力関係書に調印した。

マカロン、ジャムも提供

地元産パン 桜ケ池名物に

南砺の加工組合 11日「スリジェ」開店

南砺市の桜ケ池農産加工組合エキップが同市立野原東でパンや焼き菓子、加工品を販売する店を11日に開店する。南砺産の材料にこだわった商品ばかりで、農家の利益向上や雇用創出、桜ケ池周辺のにぎわいづくりにもつなげる。

同組合は無農薬や減農薬で野菜を栽培しており、立野原の農家を中心に昨年3月に発足した。規格外で市場に出ない野菜を有効活用する方策を探り、開店準備を進めてきた。昨年度の県6次産業化モデルや市のエコビレッジ構想の提案型事業に採択された。店名はフランス語で桜を意味する「スリジェ」で、約60平方㍍の空き店舗に入居した。

8日、関係者を招いて試食会が開かれ、立野原産ニンジンを練り込んだパンなどが提供された。神田清組合長(66)が「立野原の赤土で栽培したおいしい野菜を中心に付加価値を高め、喜んでもらえる商品を作っていきたい」と述べた。

開店時にはパン7、8種、ピク種、える「ラエク司さも桜心身うれ